

# “女性ユニオン”の先駆的組織の運動史的文脈を問う

## ——1987年・大阪・“女たちだけの労働組合”——

大阪大学大学院 牧野良成

### 【1. 目的】

日本では1990年代以降、労働運動のなかでジェンダー公正を追求するオルタナティブなアクターのひとつとして、原則として女性だけに成員資格を限定する個人加盟ユニオン（通称“女性ユニオン”）が注目を集めてきた（小谷 2013）。既存組織の一部門・下部組織としてではなく、女性のみで独自の組合機能を有した組織を設立するという実践は、労働運動史上皆無ではないものの、〈階級的連帯に亀裂をもたらす〉、〈組合の民主主義を損なう〉など、必ずしも肯定的な評価をあたえられてきたわけではない。こうした“女性ユニオン”のような組織形態が許容され、成立し得た運動史的文脈にかんしては、これまで立ち入った分析がなされていない。そこで報告者は、1987年11月大阪で結成され、“日本初”の“女たちだけの労働組合”として“女性ユニオン”の嚆矢となった「おんな労働組合（関西）」（以下、「おんな組合」）を事例に、同時代関西圏下の社会運動セクターの運動史的文脈の復元を試みた。

### 【2. 方法】

おんな組合結成メンバーに、結成前史を中心に生活史の聞き取りを行なった。実査の過程では、協力者が所蔵していた当時の未公開資料や、関係する公開資料の存在（大阪産業労働資料館、ドーンセンター情報ライブラリー、国立女性教育会館所蔵）もあきらかになった。結成の前提となる動員構造はもちろん、組織形態をめぐる議論の状況を把握するべく、聞き取り記録と文書資料とを照合しながら、当時活動家間で共有されていた組織論の文脈性を復元することを分析上の指針とした。

### 【3. 結果】

おんな組合の結成には、1960年代なかばから70年代後半にかけて労働運動インダストリーのなかで生成し、とりわけ関西圏で独自の展開をみせた、いわゆる“新左翼”系のネットワークが動員構造として決定的な役割を果たした。そして構想にあたっては、“新左翼”系の運動において自覚的な労働者個人の加入を前提とする形態として再評価されつつあった、“地域合同労組”がモデルとして参照された。ただし同時に、結成メンバーはそれぞれ以前からの活動経験をも参照しており、実現された“女たちだけの労働組合”には、“新左翼”系の運動文化を批判的に乗り越えようという狙いも持たされていた。

### 【4. 結論】

既存の運動インダストリーの周縁において生成したがゆえに、“女たちだけの労働組合”という組織形態には、1980年代末に並存していた複数の運動インダストリーの編成原理が交差的に反映されていた。おんな組合は、労働運動における「文化的または経験的に利用可能な組織モデルの集合」としての「組織レパートリー」（Clemens 1997）に生じた変容の画期を成す存在のひとつだとみなせる。労働権のジェンダー公正な保障を目指す運動にとってこの変容が有した意義については、後続の“女性ユニオン”はもちろん他の女性労働者組織をも視野に収めたさらなる検討が求められる。

### 参考文献

Clemens, E., 1997, *The People's Lobby: Organizational Innovation and the Rise of Interest Group Politics in the United States, 1890-1925*. Chicago: Chicago University Press.

小谷幸, 2013, 『個人加盟ユニオンの社会学——「東京管理職ユニオン」と「女性ユニオン東京」（1993年～2002年）』御茶の水書房。